

中学生の「税についての作文」優秀作品  
『新潟県南魚沼地域振興局長賞』

## 見えないところで支える税金

十日町市立 川西中学校 2年  
山本 澪音

私は中学校に入学直後、新型コロナウイルスにかかった。今では後遺症などは残らず元気に過ごせているが、ふと思った。「検査費とかってどこから出てるんだろう…。」

もともとそんなものには興味は無かったし、今までの自分だったら調べたりなんかしなかっただろう。だが、自分が感染してあの辛さを知ったからこそ調べてみたいと思い、パソコンに手をのばした。色々なワードで検索してみた。「コロナ税金」「コロナ税金使われ方」「コロナ予算」たくさん検索するうちに、関連でたくさんのワードが出てきた。その中でも「コロナ予算」というものが目についた。コロナ予算とは、いわゆる新型コロナ対策に当てられた国の予算で、これが異次元の規模であるのだという。「別にそうでもないだろう…」そう甘く見ていたが現実とは違った。単年度で約 77 兆円、すべてコロナ予算である。わかりやすく東日本大震災復興予算と比較すると、東日本大震災の予算 10 年分では約 32 兆円である。これでも目が飛び出るのに単年度で約 77 兆もいくと、もう声も出なかった。この金額は流行が本格化した令和 2 年度だけの総額だ。一体、どこからそんなお金がでてくるんだと思ったが、それには理由があった。

コロナにかかった場合の入院費や、検査、マスクをしなければいけないご時世となって急速にマスクが買い占められた…そんな時に配られたマスク。コロナ禍で売れ行きが下がってしまった飲食業を営む人達を助けるために作られた「GOTO イート」。拡大防止から、経済対策までたくさん使われていた。衝撃だった。ニュース番組で聞き逃しにしていたものすべてが国や市が支えていてくれていたなんて。そんなことを全く知らずに今まで生きていたのだと、色々な気持ちがぐるぐると私の中で渦巻いていた。

コロナによって崩れていたものを私達が日常的に納めている税金でふんばり、その後をも支えたのである。たくさんの事に使われている税金だが、自分たちの健康や安心安全で暮らせるように使うことも、必要であると思う。

私達が納めている税金は、自分達に返ってきていることもある。最近は物価の高騰もあり、生活が苦しくなっている一面もある。だが、少しでも税金を納めてだれかのために、自分のためになればいいなと思う。

ほんの小さなことでも、中学生である私でも、人の役に立てることがあるかもしれない。それは、これからの未来にとっても私自身にとっても大切なことだ。